CT (computed tomography)

CT は、多くの病院や診療科で使用されている検査です。撮影される部位や方法も多く開発されています。特に石灰化を検出するのに優れているため、腎臓関連では尿路結石を見つける時や、腹膜透析中の患者さんであれば腹膜の様子をみるために撮影されます。また CT 検査には単純撮影と造影剤を使用する造影検査があります。体の中にあるできもの（腫瘍）を調べる時に、そのできものに、どのように血液が流れているのかを調べることが診断や治療のために重要な場合があります。その際には、点滴から造影剤を注射してから CT を撮影する造影検査が必要となります。CT 検査は短時間で撮影できる利点がありますが、医療放射線への被爆も問題となります。また造影剤を使用する場合には、どのお薬でも可能性はありますが、体に合わずにアレルギー反応が出る場合もあるため、同意書が必要となります。担当の先生からしっかり説明を受けてください。また、短時間で撮影できるとはいえ不安などで撮影中に動かずにいることの難しい場合には、鎮静といって眠るお薬を使用する場合もありますので、主治医の先生と相談しましょう。

MRI (magnetic resonance imaging)

MRI も、多くの診療の場面で使用されている検査です。撮影される部位や方法も多く開発されています。CT 検査と異なる点は、撮影のための時間は長くなりますが、被爆の心配がないという特徴があります。水分を撮影することに優れているために、尿の流れ道を撮影する MRU (MR urography) という検査も可能です。MRI の撮影の際には、体に金属が入っていると撮影できない場合があります。撮影の前には最終的な確認も行われますが、事前に主治医の先生とも相談しましょう。また MRI 検査にも単純撮影と造影剤を使用する造影検査があります。造影剤を使用する場合には、どのお薬でも可能性はありますが、体に合わずにアレルギー反応が出る場合もあるため、同意書が必要となります。また、腎臓の機能が低下している場合には、使用することが危険な造影剤もありますので、担当の先生からしっかり説明を受けてください。また、撮影には時間がかかり動いてしまうと上手く撮影できないため、鎮静といって眠るお薬を使用する場合もありますので、主治医の先生と相談しましょう。